

今回は、MIMD（マルチプロセッサ）について、問題点を議論してみたい。

- (1) MIMD（マルチプロセッサ）が得意とすることは何だろうか？ 苦手とすることは何だろうか？
- (2) ハードウェア構成として、共有メモリ型と分散メモリ型に分類されることがあるが、それぞれの良い点、問題となる点を比較してみよう。
 - (ア) 処理性能の得やすさ ~ 構成上何がボトルネックになるか
 - (イ) 拡張性（スケーラビリティ）
 - (ウ) プログラムの移行性、考えやすさ
- (3) NUMA（Non-Uniform Memory Architecture、メモリアクセスが一樣でない）構成のシステムを使う時、ベストの性能を出すためには何を考える必要があるだろうか？
同様に、データ転送時間（通信時間）が相手によって異なるとき（たとえばマルチホップになっているので時間がかかる等）ベストの性能を出すためには何を考える必要があるだろうか？
- (4) 直列プログラムを MIMD 型のコンピュータに移して並列化しようとする時、何が起こるか？ そもそも、直列プログラムを移すということができるだろうか、それとも新しく計算手順を考え直す必要があるだろうか？